

# 琉球大学学術リポジトリ

## 子供の上手な叱り方

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮里, 澄子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20655">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20655</a>

# 子供の上手な叱り方

子供はなるべく叱らないで、しつけをするのが望ましい事です。けれども現実の問題としては反省させるためにやむをえず叱る必要がある場合もあります。叱る事は子供の悪い行いを良くするのが目的で子供がわかったと悟り、その行為を再びくりかえさないようになる事が大切です。しかし上手な叱り方をしなせんと良くしようと思って叱たのに、かえって前より悪い事をするようになったり、子供の心をひどく傷つけてそれが性格に影響するようなこともあります。では上手な叱り方とはどう云う事でしょうか。

## 愛情をもって冷静な態度で

叱る人が感情的になる事は子供に反感をうえつける結果になりがちです。何故自分が叱られているのかその理由が子供にはっきりのみこめるように愛情をもって冷静に叱りましょう。

東京のある小学校の調査によりますと60%位の子供が毎日親から叱られており、更に叱られた子の50%は悪かったと反省して居ますが、残りの半分は母親が嫌いになったと答えたそうです。これは多分叱られた理由がはっきりしなかった為だと思われまます。

## 叱り方は一貫して

子供は大人が叱るのは悪いことで、叱らないのは良い事だと云う風に考えがちで、そういう事を通して道徳を学ぶのですから、同じ事をしても親の気嫌によって叱られたり叱られなかったり致しますと、子供の善悪の判断

が混乱してしまいます。そして大人の表情によって態度をかえるような、うらおもてのある子供になります。

それと両親の子供に対する態度が一致していることも大事です。一方が叱っても他方がおぼたりしますと自分の行為を反省しようとはしません。家族全員が同じ態度をとる様に注意しましょう。

## 原因を良くきいた上で叱る

叱る前に必ず何故子供がそうしたのか、その原因を確かめるべきです。兄弟げんかの場合、何時でも一方だけを理由もきかずに叱る事は親に対する不満をうえつけます。或いはお茶わんをこわした時、すぐにかみがみどなるのは考えものです。お手伝いをしようとしたのかも知れないからです。大人は物質的な損害の方が先に頭に来て、子供を叱りつけがちです。それは折角よい事をしようとした子供の心を傷つけ、これからは絶対にお手伝いなどはするまいという、かたくな気持を育ててしまいます。この場合はむしろお手伝いをしようとしたその心かけを（動機）をほめておいてから「これからは失敗しないように気をつけましょうね」と反省させるようないい方をする方が良いでしょう。また乱ぼろをしたり反抗したりする場合でも子供なりの理由があるかもしれません。

或る共稼ぎの家庭でおこった事です。一人の子供がいつも近所の子供をいじめて困るといふ苦情が出るので、そのたびにあやまりに行くのです。これは母親が居ないためにおこる欲求不満だといふ事がわかり、仕事をやめて家に居るようにしたら、じきに乱暴が止んだとの事です。その原因をつきとめないで、子供を叱ってばかり居たら、そのまま不良化したかも知れないのです。

## 自信を失わせないような叱り方

子供はそれぞれの個性も能力も違いますから他の子供と比較してその結果自信を失わせるような叱り方は絶対にいけません。例えば同じ兄弟でも成績のいい子と悪い子があるとしますと、何時も成績の良い子はほめられ、悪い子は一生懸命勉強して少しづつよくなっているのに、お兄ちゃんに比べると悪いと云う理由で叱られるということがあります。努力して少しづつ上っているのに叱られ、成績が良いからと努力しないお兄ちゃんの方がほめられるという事になりますと勉強しようという意欲をなくしてしまうと同時に、自分は駄目なのだと劣等感を抱くようになります。この場合はその子の能力を基準にして考えてやるべきで、決して他の子と比較してはいけません。また人前や大勢の中で叱ったり、日頃気にしている欠点をとり立てて叱ったりすることは子供の自尊心を傷つけますからさけるべきです。

## 時間的間隔をおかないで叱る

子供が悪いくことをしたら出来るだけ早く叱った方がよいでしょう。本人が忘れかけた頃持ち出されたのではいくらか罪の意識がうすらいでまいりますし、幼い子供程その傾向は強いのです。それで自分がどうして叱られるのか理解出来なくて不満を覚えさせるだけで余り効果はのぞめません。

## 子供の行為だけを叱る

叱るときは一応子供の行いと人格を切りはなした態度をとった方がよいのです。例えば子供のやった行いは悪いけれども、それは子供の性格が悪いからではない。行いさえ良くすればいつでも良い子だという事を理解させる事です。「駄目ねあなたは」とか「何ていやな子でしょう」とその子の能力や人格まで否定するような言い方はさけるべきです。

## 叱った後はこだわらないこと

子供に反省した様子が見えたら自然に親しく話しかけたり、一緒にお散歩に出たりして出来るだけ早くいつもの態度にかえるようにしましょう。例えば或る父親は傍から見て居るときびし過ぎるように見えるのですが、その子供は心から父親に対して信頼と親しみをもっているのです。その父親は叱る時には確かにきびしいのですが叱る時とその他の場合のけじめがはっきりしているのです。一日中ぶつぶつ小言を云う事は何の効果もない事を知るべきでしょう。

## 最後に申上げたいことは：

子供の善意を信じて、叱らない事を原則にすること。そうするためには、先ず自分が寛大な気持をもつ事が大切だと思います。よく子供を叱るのは精神的に安定しない人に多いと云われます。忙しすぎたり、疲れて居たりしますと自然におこりっぽくなります。そのためにあとで考えると叱る必要のなかった子供にまであたりちらすことも出てまいります。子供のしつけのためにも家庭の管理を上手にしていつもさわやかな気分で見られるように心がけましょう。そうして、どうしても叱る必要のある時には、先にあげた条件を念頭において取り扱い、叱ることの弊害を出来るだけ少なくするようにつとめましょう。

(みやさと すみこ)

